

令和2年度 第2回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 令和2年11月27日(金)

10:00～11:00

場 所 志摩市役所4階 401・402会議室

出席者(順不同・敬称略)

(1) 審議会委員(11名)

牧谷拓、柴原行正、齋藤平(副会長)、鈴木正和、清水久史、
尾間正美、高木俊宏、東川清加、磯和範好、森本洋司、井上摩紀

(2) 事務局(4名)澤村博也、東桂一、橋本勝弘、西山顕一郎

傍聴者…3名

事項書1. あいさつ

【齋藤副会長】

本日は、会長の岩崎先生が所用でご欠席ということで、本日の取りまとめを副会長の私がさせていただきます。

本日の審議会は、第2期総合戦略の推進についてですが、特に進捗管理及び評価についてを議題としております。皆様には、活発なご議論をしていただきたいと思います。また、個別のことでお気づきのこともありましたら、ご発言いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

委員の任期(令和2年11月8日～令和3年11月7日)について説明。

今年度、新たに委員として委嘱した、森本委員を紹介。

傍聴席を設置し公開していることや撮影や録音等の了承について確認。

委員17名中11名の出席により会議が成立していることを報告。(志摩市地方創生審議会条例第5条第3項)

志摩市地方創生審議会条例第4条第3項及び第5条第2項の規定に基づき、議事進行を齋藤平副会長に依頼。

事項書2. 議事(1) 第2期総合戦略の推進について

【齋藤副会長】

事項の1番目、第2期総合戦略の推進について、事務局からの説明を求めます。

《第2期総合戦略の推進について》

[事務局説明]

【齋藤副会長】

これまでは、当審議会と地方創生推進本部会議が同じような立ち位置で、実績報告シートに基づいて、事業の内容について、他にもこういうことができるのではないかとか、そういった意見を提出してきたことが多かったかと思います。

この第2期の進捗管理については、庁内で事業の実績の点検評価をし、この事業は「非常に順調」などの評価を付け、これはどういうことで、こういうことで効果が出ているということが、この検証シートでわかるようになってくるということです。

それで、あるいは、それが少し目標に到達しにくいというような場合には、何が問題となって目標値に到達できなかったのかっていうことを、検証していただいて、庁内での検証を経て、今後、こういうふうな改善点が考えられるっていうことも、このシートに書いていただくようになるかと思っています。

そして、審議会としては、そういうことをきちんとチェックしながら、それがまた改善につなげて、さらに実際にそれが動いていくのかということ、点検していくということですね。

これまでの方法と少し違いますので、その点が今回の、進捗管理及び評価についての議論の観点になるかと思っています。

それでは、事務局からの説明につきまして、質問等はございませんか。

【鈴木委員】

一般事業法人の考え方とは違うと思いますので、ご参考にお尋ねをしたいのですが、物事を実行するにあたっては、いわゆる5W1Hが大事だと思っています。この基本目標評価シート、それから具体的取り組み効果検証シート、両方拝見させていただいていると、しっかりカバーされてらっしゃるのだらうなと思うのですけれども、我々が、例えばこういった目標管理をするのに目標管理シートみたいなものを作っていくときには、何をいつまでにということをすごく言われるわけでごさいます。おそらくこのKPIの裏側には、いつまでにといったものがあるかと思うのですけれども、どこかにそういった表現があってもいいのかなと思います。

例えばこの、このスケジュール感を見て、多分そうなのだろうと勝手に判断しておるわけなんですけれども、評価単位というのが、例えば何を何%実行しましたよといったところで、我々一般企業、事業法人なんかですと、半期あるいは四半期ごとで達成度合いというのが求められるわけなのですが、この方法を拝見しますと、そんな半年で達成できるものばかりではないとは理解していますが、いつまでにというところを考えていくと、例えば半期でもって、評価の方を見ていくであとか、この半期で見ることによってPDCAの方の回転がもう少し早くなるのではないのかなというふうに感じました。

また、これは当然されていくのだろうと思っておりますが、PDCAを回すということは当然の話ですけれども、例えば、そのKPIの変更について、我々一般企業でもそうなんですけれども、これ終わっちゃったよね、だったら次のことはこれ変えてく必要があるよね、目標はこういうふうにとさらにもう一つ高めていこうねといったことで、KPIの変更というのをやっていくわけなんですけれども、当然、この固定的な形で、ずっとこのシートがずっと5年間、そのまま生きていくというわけではありませんよねといったことを確認させてください。

【事務局】

まず、何をいつまでにといい表現があってもいいのでは、ということについては、行政の場合は、1年間、年度という単位の中で、KPIの設定をしております、その中に具体的な取り組みとして、例えば、児童生徒の地方創生参画事業、県立高校の魅力向上事業、食材を生かした食育推進事業、中学生職場体験事業というふうに、年間のスケジュールの中で進めていき、それが年度を通じて完成される事業が大多数となっております。そのため、年度単位の中で、実績を表していくということになっております。

なかなかその辺りがこのシートでは、行政の業務の流れが見えにくかったところがあると思いますが、行政の内部的には年度単位という形で進めていこうと考えておるところです。

もう1つ、PDCAを回していく中で、KPIの変更はどうしていくのかということにつきましては、これは当然、5年間の計画ということでやっていきますが、事業を実施して、本当に成果があったのかどうかというのを内部で審査して、なおかつこういった外部の審査機関でも審査をいただいで、それが、効果が薄いか、事業実施の中で、実施が例えば難しかったとかいろんなことがありますので、その時は随時、簡単な見直しということはいたしません、内容として、吟味した中で、変更する必要があるらば変更していくという形で、皆さんのご意見も聞きながら、進めていきたいと思っております。

【齋藤副会長】

期間というのはつまり、この計画、総合戦略自体の、最終的な到達目標値は令和6年ということになりますので、その中で、単年度で、それぞれの年度の中で、目標値が設定されて、それに応じて、事業が進められていくということになるかと思えます。

それで、その時に重要なのは、到達できそうにないから、KPI変えるということではなく、課題をきちんと洗い出して、その課題について改善する方法を庁内で議論していただいで、それでもなおかつ、これを改善するなかなか見込みがないという場合には、KPIの見直しを考えていくことになるかと思えます。それで、そういう流れがきちんと回っているかということ、審議会では、特に重点を置いていきたいところです。

このスライドの3枚目の中で書かれている様式の簡素化、ここが非常に重要で、何がここで示されるのがいいのかということが、大事だと思います。たくさん書いてあるとか、あるいは部長さんとかそれぞれの課長さんが、たくさん作文すればそれが何か評価がうまくいっているというような印象を与えるような場合も、往々にしてこの点検評価についてはあるんですけども、むしろ数値に基づいたエビデンスを背景にして、そういう評価が行われていくということの方が大事で、そのことがこれまでですね、指標とされているものがふんわりとし過ぎていることはないかとか、指標だけではなくて、事業の進捗についても、主観的になっていたんじゃないかということが、4枚目のスライドにも、反省点として書かれているわけですけども、数値に基づいた、その評価をできるような形に、できるだけ簡素化をしていただいでいただくのが非常に重要なことというふうにと感じたところです。

【齋藤副会長】

他のご意見やご質問はありませんでしょうか。

それでは、今年度の実績について、事務局の方から、ご報告いただけることがあればお願いしたいと思えます。

【事務局】

《第2期総合戦略の実績について》

[事務局説明]

今年度の実績について、現在、実績が挙がってきている事業について報告。

【齋藤副会長】

ただいまの報告について、ご意見ご質問等ありましたらお願いします。

本日、せっかくお越しいただきましたので、よろしければ、お1人ずつ順番にご発言をお願いします。

【井上委員】

「志摩市を元気にする創業支援補助金」の実績で、浜島町のパン屋さんの話がありましたが、場所はどこで、どんなお店ですか。また、賢島のお店についても名前と場所を教えてください。

【事務局】

浜島のパン屋さんですが、「伊勢志摩ブレッド・ラボ」といまして、浜島町迫子です。11月14日にオープンされたということで、今のところ、土日のみの営業とのことです。

賢島のカフェですが、賢島の定期船乗り場の近くのエントラダ賢島の1階で、7月にオープンしたとのことです。

【森本委員】

今回、初めて会議に出席したのですが、計画を見せていただいて、非常に素晴らしい施策があるなどびっくりしております。

先ほど、移住の相談が増えてきているとのことでしたが、私も普段、絵を描いたり、運動をしたりしていますが、移住される方は、地元の方よりもスポーツなど生活を楽しむという考え方が非常に多いと思います。志摩市は、気候も穏やかで、食べ物も美味しい。ただ、移住された方に話を伺うと、交通が不便だとか、医療の面の問題もあるかと思えます。そういった面がもっと充実していれば住みやすいのみということも聞いています。

全国的に見ますと、第2の故郷というか、別荘地として売り出して、税金を安くしているところもあります。住民にならなくても週末だけ来るとか。そのあたりを売り出していけば、もっと人が訪れるし、志摩市は住みやすいと思ってもらえるかと思えます。

特に少子化は大きな問題ですので、そういうことを感じました。

【磯和委員】

私は、自治会の方から出させてもらっているんですが、やはり人口が減ってくるのが、すべてにおいての問題点だと思います。移住・定住の関係ですが、テレビ等でもよく空き家になった家を無料で使っていただいて、というのが紹介されていんですが、この間、空き家対策の会議にも出席していたんですが、市内で、空き家はたくさん出てくるんですが、この地域には、文化財的な魅力のあるような建物が少ないと。簡易な建物が多くて、やはりそういう面では魅力的な空き家が少なく、そこを借りて住むのは少ない傾向なのかなというような話もありました。

自分たちの家の周りでも、空き家に定住してくれている人もいますが、地域では、野菜を持

っていったりとか、暖かく迎えています。こういう地域ですので、結構溶け込んでいただいて、非常にありがたいなと思う部分もありますので、ぜひそういう面では推進していただきたいなと思います。

また、このコロナ禍にあって、これを逆手にとって、テレワーク等も非常に推進されていますので、この辺の環境もこの地域は大変すばらしいし、常時、会社に出勤しなくてよければ、そういった面でもしかるべき土地、建物等を提供してあげれば、そちらへ、週に3日でもこちらへ来て仕事をすると。そういう推進をして、そういう方向にぜひPRをしていただいて、それと並行してそういう家等の提供ですか、空き家バンクといった取り組みも推進していただけたらなと思います。

それと、私もウオーキングが好きで、毎日地域を歩くのですが、この地域、英虞湾沿いにはかつての真珠養殖の工場が、ほとんど稼働していない状態で残っています。そして、素晴らしい船がたくさん係留されていますが、全然動かない船ということで、活用方法がもったいないなど。素晴らしい財産があるので、環境がもう、以前のような、その密集した筏もありませんし、何とか規制緩和等も含めて、ああいう船を利用できないかなど。寝かしていくのは本当にもったいないなという気がしておりますので、非常にもう、障壁は多いと思いますけども、この辺でPRできるのはああいうことかなど。この辺を何とか魅力あるものにつなげられればいいなということで、何十年来私は思っておるんですが。そういうどっかで、そういったことでも、進められればいいかなと思っております。

【東川委員】

今回、進捗管理や評価っていうところのシートの見直しということがなされたうえで、第2期に進んでいくっていうのは、その上では、客観的に今後、検証、目標評価っていうのがわかりやすく、今後この審議会でも審議がなされていくような形になっていくのではないかなっていうのが、今回の率直な感想ではあります。

それで、先ほど磯和委員もおっしゃっていたところですけども、第2期のこの総合戦略を進めていくタイミングが、今のこのコロナ禍の中っていうところになってきている上で、これまで通りにいかない事業っていうのもたくさんあるので、そういった部分の見直しだとか、この時期だからこそ、このコロナ禍だからこそできるやり方を考えて進めていく部分というのが、たくさん出てくるのではないかというのを感じています。

逆に、そういった意味では、このコロナ禍の中で進める地方創生、人口ビジョンの目標達成というところに向けては、改めて、この地域っていうのを見直せるいいチャンスなんじゃないかなっていうふうには率直にちょっと感じています。なかなか外に出ていくこと、感染すると嫌だなとか、移ったらこの地域で大変やから、罹りたくないわって思っちゃる方がたくさんいる中で、外に出て行くことっていうことが少なくなっているっていうことを考えると、この地域を改めて見直せるチャンス、地域の良さや人の繋がりやの温かみっていうのを、今まで以上に感じられるんじゃないかなというふうに思っています。そういう部分では、この地方創生を進めていく上では、絶好のチャンスではあると思いますので、そういったところを、活用して、いろんなイベントだったりとか祭りだったりとかっていうのが、今年は何も開催されない中ではあったんだと思うんですがこれから来年にかけて、どういった形でできるのか、コロナ禍でも、皆さんが楽しめるこの地域のよさを感じられるようなやり方で、何かこういった神事だったり、イベントだったりとか祭りっていうのをコロナ禍の中でやっていこうというふうに考えてらっしゃった人たちもいると思うので、そういった考えることによって、やっぱり地域のことを思うっていうところに繋がっていくと思うので、

そういったところが、地方創生の取り組みの中にうまく組み入れられて、総合戦略の進捗がスムーズに進んでいけばいいなというふうに思っているのです、そういったところをこの審議会の中で、しっかりと評価とか、進捗管理っていうところを見させていただければなというふうに思いました。

【高木委員】

第2期総合戦略の話ですけども、先ほどもご意見出ましたけど、KPIはですね、やっぱ5年間固定にせず、毎年度、毎年度見直して、その時々に必要なものに置き換えていくということが必要かなと感じました。

ハローワークの立場から、地方創生といえばやっぱり、人がたくさんいてですね、たくさん働き場所があって、それが第一かなと考えます。

従って、企業の誘致活動とかですね、そういったことも進めていくべきなんじゃないかと。中・高生の先ほどのアンケートでは、一度は外に出てみたいというお話がありましたけども、やっぱり働く場所がたくさんあってですね、魅力のある企業がたくさんあれば、外に出て行くと考える生徒も少なくなってくるんじゃないかと思われまますので、まずは企業誘致を進めていくのかなという部分。

それから、地理的に誘致活動が難しければ、志摩市が全国的に見た場合、伊勢志摩を一括りにした場合に、伊勢市は当然のことながら、志摩市はどういうふう映っているのか考えたときに、もっと外に向けての発信の仕方ですね。ホームページがあるというものを全国の方が見るということはないでしょうから、志摩市のアピールの仕方、人を呼び込むアピールの仕方ですね。この工夫が今後は必要になってくるんじゃないかなと思います。

【尾間委員】

まず、第2期における進捗管理及び評価方法の方向性という中で、様式の簡素化、っていうお話があって、それは非常にいいことかなと思います。

今回、添付してある資料が、基本目標評価シートというのと、具体的取り組み効果評価検証シート、これが雛形というか、このようなものが出てくるのかなと思っておりますがよろしいでしょうか。

それで、現在の進捗の説明の中で、こちらの検証シートの方で、児童・生徒の地方創生参画事業ということの補足説明があって、中身がわかりました。無駄な資料っていうのは、やはり私たちも資料づくりに追われてしまって、なかなか大変な日常なんですけど、簡素化は大事なんですけど、言葉足らずにならないように、説明不足にならないように。それと私たちも、積極的に質問をして、理解がしっかりできるようっていうところが、逆に求められるようになってきたのかなと。

今までの資料、作ってらっしゃる方のご苦労が忍ばれるぐらい、本当に膨大な資料でした。ですけど、一読すると、とても中身のわかる資料で、ありがたいのはありがたかった。だけど、過不足を省いていただきながら、最小限の労力と、私たちも、日常の仕事をこなしながらの委員をさせていただいているので、そのあたりのことも考えてということだと思んですが、頑張ってくださいながら私たちも理解できるように頑張っていくことを求められる内容にこれからなってくるのかなということを思いました。

【清水委員】

第2期が始まりましたということで、5年間の目標として、こういう目標シート、本当に皆さん

がおっしゃるとおり、わかりやすくなっていると思います。5年後の目標もきちんと書いてありますし、これに沿ってという部分で、改善点とか、見えてくる部分もあると思います。そういったところを私たち審議会委員がまた見ていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、観光の話にはなるんですけども、今月の16日に、三重県と地域の金融機関とREVICという会社と、協定を結びまして、中心は、志摩と伊勢と鳥羽ですね、この3市についてですね、観光についての今後協議会の立ち上げとかですね、地域に投資をしていくという協定を締結いたしました。

昨日もその会議がございまして、志摩市役所からは、観光の方が見えただんですけども、その時の話だと伊勢神宮に、確かに多く観光客おられるんですけども、なかなかその後、志摩市、鳥羽市に観光客の波がこない。そういったところをですね、ちょっとどこまで協議会の方でできていくかわかりませんが、そういった面でもですね、何かしらこの志摩市の方に、また観光面でバックアップできたらなと思っております。

【鈴木委員】

この目標評価シート、効果検証シートに基づいてこれから事業を進めていただけるんだと思っておりますけども、これを進めていくのはすごく大変なんだろうなと思っております。せっかくこういった形で、いろんな成果がこれから出てくるかと思っておりますので、例えばその成果が出たのであれば、我々審議会の委員は当然なんですけども、例えば市民の方々の目にも付くような形でお示しいただくような形になれば、せっかく進めていただいている、市役所の方々、あるいは文章を作られる方々の励みになるんだろうなと思っておりますので、この辺り私も期待をしております。

それから、私はこの地元の金融機関ということでもございますものですから。6つの政策分野がありますけれども、特に3、4の分野については、さらに推進していただけるだろうということを期待しておりますので、ぜひお願いをしたいと思っております。

【柴原委員】

志摩スポーツコミッションの柴原です。先ほど、伊勢神宮には来るけれども、こちらの方には観光客が来ないといったお話がありました。私は、商工会の副会長もしておりますのでその辺りについてですが、来春、VISION（ヴィソン）が多気町の方にできると思うんですが、より一層、志摩市の方は状況が厳しくなると思います。多分、ヴィソンと伊勢神宮、このあたりで観光客が止まってしまうのではないかと。

ですから、この志摩市においては、志摩市の魅力を発信しながら、他の市町と違うことを考えていった方がいいと思います。まず面でとらえていくってことですよね。このいろいろ書いていただいている中で、先ほどKPIも見直していくということですので、これは本当にいいことかなと思います。

ただ、本当にコロナ禍の状況の中で、計画していたことができない。イベントもそうですし、祭りもそうなんですけど、今年は今すべてにおいて中止ということになりました。その中で、どういうふうにしたら実施できるのか。今年、私のところもシーカヤックの活用など、大矢浜ビーチを、「ビッグアロー」という名前をつけながら、いろいろ変化させていくんですが、その中で、モニターツアーを実施しまして、関東圏、関西圏からモニターとして来てもらっています。

その中で、若い方で、夫婦で子どもがいらっしゃる方が、志摩に来て体験をしながら、ワーケーションに近いことになるんでしょうが、お父さんは働いて、子どもと奥さんはシーカヤックを楽し

んでもらって、意見を聞かせていただいたら、志摩の海は水質が良いので、シーカヤックから海底が見える、魚が見えるというのは初めての体験だったということで、大変喜んでいただきました。

また、今年、三重県、県警の方で、タンデム自転車の公道での使用を解禁していただきました。スポーツコミッションでも2台ぐらい購入させてもらって、1回、浜島海浜公園から始まる260号線のビン玉ロードにかけての道を、タンデムで乗ってもらって、モニターを実施して、志摩の魅力を発信していく予定です。

先ほど言われましたように、なかなか企業の誘致っていうのは本当にすぐ難しいので、中学生、高校生の皆さんがこういったことに携わってもらって、一回外へ出たとしても、こういうことをもう一回、伊勢えび祭とかいろんなこともありますけれども、もう一回戻って、今度はその責任を持って、我々がやるよっていうことを感じてもらいたいなっていうのが一つ。ですから、この地域の、年配の方もそうですし、子どもも含めて、外から来る。やっぱり人口減少というのは、これはもう止められないんでね、いかに人を呼び込むか。

例えば、ビーチラグビーやビーチサッカーをやっているんですが、どちらも関西・関東圏からも来ていただいています。ビーチサッカーの参加者は、志摩市をよく知っていますが、ビーチラグビーの参加者は全く知らない。これはどういうことがあるのかなと思ひまして、ちょっといろいろ聞いたんですけど、競技の違いもあるんでしょうけど、やっぱりこちらへ来たことがない。一度来たなら、こんないいところがあるのかということになりましたんでね。やっぱり志摩の魅力について、他の市町と一緒にやっていると、志摩市は志摩市で、とにかく魅力があるということを理解して、それで、住民の方にも優しくしていくのがいいのかなと思ひまして。全般的に、面でいろいろ考えたいと思います。

【牧谷委員】

移住者について、今、思っていることなんですけど、今、志摩市に移住してきてもらって、こういう仕事がありますよとか、たくさんの方が働ける場所を作ろうとか、こういう一次産業をやってみませんかとか、そういうのがあると思います。そういう人を集めるよりも、今は、もう働かなくていい人を優先して移住してもらおう方がいいのではないかと思います。

というのも、私も一次産業、農業をやらせてもらっているんですけど、農業をやりたいという人が、志摩市に教えてもらって農業を始めるといった人たちもいるんですが、志摩で農業をやるとするのは、そうイージーなことではありません。三重県でも、四日市や松阪市とか、ああいう人口が多い地域でやるのと比べると、やはり販路というのは限られてきます。大都市圏に出荷すればいいじゃないかという意見はあるんですけど、そういうのは、今の時代には合っていないと考えています。ここでそういう大量生産しても、もっと生産しやすい大きな産地が他にたくさんあるので、そういう大量生産みたいなものをここでしても、簡単に負けてしまいます。私の場合は、地元密着というか、地元の方に助けていただいて頑張っていて、一緒にやっていく仲間は欲しいとは思いますが、少ないパイを取り合うようなことは嫌だなと思います。

なので、本当に生活にゆとりのあるような方がこっちに来て、さっきもおっしゃっていたように、セカンドハウスをこちらに建てて、週末だけこちらに来る。そういう方が増えていったら良くなるのではないかと思います。

【齋藤副会長】

それぞれ貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

本日は一番の議事は、総合戦略の進捗管理と評価ということで、この形式がこれで良いかということ概ねご了承いただけたと思います。

評価のための評価にならないようにだけはしていただきたいと思うんですけども、私事で申し訳ないですが、うちの大学はですね、もう会議が非常に多いので、何とか会議を減らそうとして、会議を減らすための会議を開いてと、もう全く矛盾していることをやったりしているんですが、その評価をやっていることで何かこうやっているかということじゃなくて、事業をやっぱりきちんと展開していくということが大事なんじゃないかなと思います。

もちろんうまく回っていないものについては改善をまず必要ということなんですけども一方で、効果の上がっている事業についても肯定的な評価をしていただいて、そういう意味ではこの検証シートの中で、例えば実績っていうようなところに、総合政策課の児童・生徒の地方創生参画事業が、今年度、こんなにすばらしい成果が出たっていうちょっとアピールポイントみたいなものも、ここに書いていただくと、尾間委員さんのおっしゃっていた、そういう情報の不足も補えるのかなってということも感じました。

それから、K P Iについては、見直さないということではないんですけども、私がこれ伊勢市の方でも同じような地方創生のまちひとしごと等に関する審議会に関わらせていただいています、伊勢市はこの観光産業の振興のK P Iを、インバウンドの観光客の入り込み客数にしていたんです。これについて、先日の審議会で、これっておかしいんじゃないかと言われて、なるほど、そうなんですけれどもこれが結局、5年間の目標値なので、5年間の間にコロナ禍どうなるかわからないっていうと考えると、今これをやめてしまうのか、今できることをやっておくのかっていうところですね。少し議論があるというところです。

具体的な事業については、単年度で見直しが図られていくと思いますが、計画自体、戦略自体の方向性っていうのはもうその5年後を見据えてのものになっているということも念頭に置きながら、進めていかなければいけないのかなという気もいたしております。

そういうことで、本日は、それぞれの立場からご意見をいただきまして、ありがとうございます。

【齋藤副会長】

その他、事務局の方からございましたらお願いします。

【事務局】

委員の皆様におかれましては、本日は貴重なご意見をたくさんいただいたと思います。

市役所の内部でも検討はしておりますが、やはり外部の方のご意見が非常に参考になりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

今回につきましては、第2期総合戦略から大幅に検証の仕方が変わりましたので、その方法についてご審議いただきました。

志摩市の総合戦略としましては、先ほど、どなたか発言されていましたが、やはり人口減少を止めるということで、人口ビジョンでは令和42年に3万人ということを目標に、あと40年後になりますけども、そうしようと思うと令和7年に社会減をゼロにしなければいけないということで、今非常に厳しい状態ですのでこちらも危機感を持って、総合戦略を進めて参りたいと思います。

また、今後、今日見ていただいた検証シート等に、実績の数字を入れて、皆様にまた見ていただいて、いろいろご意見いただいて、人口減少に対処していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

次回の審議会は2月ごろを予定しておりますので、またご連絡いたしますので、どうかよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

それでは、これで令和2年度第2回志摩市地方創生審議会を終えたいと思ひます。

以上